

合唱に興味のなかった人にも聴いてほしい

1937年の忌まわしい記憶は、国籍や言語も越え、全人類にとっていまだに癒しがたい生々しい傷である。しかし、その1937年を舞台に描かれた「子供の十字軍」は、過去にポーランドで起きた限定的な悲惨な出来事を描いたものではない。実は時代を越え、国境を越えて今も生き続ける、我々の目の前にある悲惨を描いたものだ。

「子供の十字軍」は今も彷徨い続けている。それだけでなく、今も新たな「子供の十字軍」が次々にこの世に生まれている。これこそ、本当の悲惨であり悲劇なのだ。

岩田達宗



Book on
Aug. 30, 2015

岩田達宗《演出家》

東京外国語大学フランス語学科卒業。舞台監督集団ザ・スタッフに参加し、オペラの舞台製作にかかわる。1991年より栗山昌良氏に演出助手として師事。96年五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。オペラ演出家として各地のオペラ・プロダクションを手がけ、次々と成功を収め注目の存在となる。近年では2011年芸術祭大賞を受賞したザ・カレッジオペラハウス「ねじの回転」、音楽クリテッククラブ賞を受賞した堺シティオペラ「黄金の国」、東京文化会館開館50周年記念公演「古事記」、2013年新国立劇場「夜叉ヶ池」など。大阪音楽大学客員教授。

前田裕佳《ピアノ》

神戸大学大学院(学術修士)修了。フランスに留学、パリ・エコールノルマル音楽院(ピアノ科)にてディプロムを授与される。演奏活動は多岐に渡り、NHK学園(西宮)でのフランス音楽の講座と演奏やテグ国際現代音楽祭、日本調律師協会主催の「リクエストコンサート」、また兵庫県合唱連盟主催コンサートや大学合唱団や一般合唱団伴奏を積極的に行う。ピアノを、佐野彰子女史、Odile Delangle女史に、室内楽をNina Patarcec女史に、作曲を田村文生氏に、指揮法を斉田好男氏に師事。神戸大学、梅花女子大学、各講師。

合唱団ボイスフィールド《演奏》

1977年7月、兵庫県芦屋市で産声をあげ、以後も芦屋に活動の拠点を置き演奏活動を続けている。「世界中を歌声の野原にしたい」という願いから「合唱団ボイスフィールド」と命名。年1回の定期演奏会を活動の中心に据え、演奏活動をもって合唱をお客様とともに楽しむことを目標に活動している。2001年以降は芦屋市民オペラのコア・合唱団としても活動している。メンバーは大学生からおじさんおばさんまでの約45名が、毎週日曜日の夜、芦屋に集っている。作曲家青島広志氏との共演は30年前から10年以上続き、現在まで「ティズニーの歌」(編曲)「愛に還る」四つの宗教的な歌の委嘱初演をはじめ、「星からとどいた歌」「火の鳥」など、氏のシアターピース作品の多くを取り上げている。さらに、世界中のさまざまな国や地域の合唱音楽を演奏するなど幅広いレパートリーを持っている。

田中宏明《パーカッション》

1980年広島生まれ。12才の頃叩くことに目覚める。大阪音楽大学在学中に宮川彪、日野皓正に師事。卒業後は関西を中心に活動。jazz.funk.latin.pops等幅広い演奏スタイルに定評。2003年守口ジャズフェスティバル、2004年浅草ジャズフェスティバルで優勝。コンテンポラリーダンスの伴奏員としても神戸女学院大学、音楽学部、舞踊専攻や武庫川女子大学、健康スポーツ学科、で活躍中。2012年からリハーサルスタジオ『YANTA STUDIO』を創設。同スタジオでlessonも行う。又、自身の所属するバンド『トイロイト』や『K-106』でも活躍中。

可児麗子《パーカッション》

神戸山手女子高等学校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部音楽学科打楽器専修卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。同大学卒業演奏会、打楽器新人演奏会、アゼリア推薦新人演奏会等に出演。第17回宮日音楽コンクール打楽器部門最優秀賞受賞。オカリナ&マリンバデュオ「森の詩」のメンバーとして1stアルバム「小さな夢の歌」を2013年リリース。これまでに栗山未知、宮本慶子、伊藤朱美子、山本毅、種谷睦子、名倉誠人の各氏に師事。京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究会「京都子どもの音楽教室」特別研究員。



合唱団ボイスフィールド メンバーいつでも募集中

練習日：毎週日曜日 18:00~20:30

会場：芦屋市立青少年センター 音楽室、西宮市立鳴尾公民館など

団費：一ヶ月1500円(学生500円)

練習場や時間は変わることがあります。お問い合わせください

090-8209-0232(なかむら)

info30@voice.gr.jp

←最新情報

